

目 次

SKYLIGHT 〈今月の焦点〉	X線でさぐる原始星	坪井陽子, 小山勝二	8
EUREKA 〈研究紹介〉	大気構造 一星から褐色矮星へ	辻 隆	14
天球儀 〈読物〉	標準測光システム	市川 隆	23
SPECTRA	高所天文学の光と影 —すばる望遠鏡と高山病—	西村昌能	29
短期連載	暗い夜空の意義とその回復の手順 その4 何が夜空を明るくしているか —明らかにされつつある原因—	磯部 琇三	37
シリーズ	《公開！ウチの研究室(13)》 九州大学理学部物理学科 宇宙物理学研究室	山岡 均	44
IAU総会来る！	IAU京都総会のプログラムとポスターについて		46
星は“すばる”	大型真空蒸着装置, 山を登る …大物をマウナケアに上げるにはこうする！	湯谷正美, 林 左絵子	50
寄贈図書リスト			52
月報だより			52

表紙説明

左下 0.5–2 keVバンドでのX線写真。右下 4–10 keVバンドでのX線写真。H₂COの密度を表わすcontour (白線)を重ねてある。軟X線(左下)では暗黒星雲中心部は見えないが、硬X線(右下)ではいくつかのソースが見えだす。これらは赤外線源(Class I天体)と良い対応を示していた。(SKYLIGHT参照)

Design Concept

イメージの組立ては、基本的に“宇宙観”を置いた。時代の背景に揺さぶられながら、探求止まぬ心の数だけその思想があったに違いない。器具や建物の施された装飾もまた、時の色を見せる。

表には、書物を飾る美が必要だが、内容世界への誘いも求められる。想像性の広がりへと繋がる扉として、役割を果たせば良いのだが。

(表紙イラストレーション：藤居保子)